

皆様、本日は、四国信徒大会おめでとうございます。

この度は、皆様にこのように親しくお目にかかることができましたこと、大変嬉しく思っております。

2カ月前の7月8日、聖地において祖霊大祭が執り行われましたが、四国三布教区の皆様には、折からの西日本を中心とする大雨により、ご参拝を取りやめざるを得なかったと伺っております。

また、この大雨による被害が著しく、現在も復旧復興作業が行われていると伺っております。

そうした中で、今月に入り、台風21号によって近畿地方を中心に多大な被害がもたらされました。また、つい先日の6日未明、北海道で大きな地震がありました。

私どもは、時として、思いがけない災害に見舞われることがあります。また、各地で発生する様々な災害について見聞きすることがあります。

そうしたことを思うにつけ、私は、ここで、皆様と共に祈りをさせていただきたいと思っております。

これから、私が申し上げますことを、皆様もご一緒に思っていたいただきたいと思います。

激しい雨風や台風、また、地震などの災害により犠牲になられた方々、そのご家族、友人知人を始めとして、悲しみや苦しみ、不安や心配、戸惑いや疑いの中におられる方々、また、そのことを、見たり、聞いたり、感じたりさせていただいている私どもも、共に全人類を赦し、救うという主神のみ業にお使いいただいている、と思わせていただきます。

み心であれば、被害が最小限に留まり、復旧復興が順調に進められますように、そして、悲しみを癒し、不安を和らげ、生きる勇気と希望をもって歩ませてくださいますように、と願うことをお赦しください。

私ども一同、全人類とその父母先祖の方々、天地万物一切と共に、赦され、救われ、生きたものとして天国に迎え入れてくださいますよう、明主様と共にあるメシアの御名にあつて、主神に委ねさせていただきます。

み心の成し遂げられますようお使いください。お仕えさせていただきます。

ありがとうございました。

①之光教団の皆様には、成井理事長を中心に、明主様を真に求め、明主様が指し示された、全く新しい信仰の学びと実践に一途に励んでおられますこと、大変心強く思っております。

本年5月1日、①之光教団いつのめ教区が発足いたしました。①之光教団の皆様には、いつのめ教区発足に至るまで、多大なるご支援、ご協力をいただきましたこと、誠にありがたく思いますとともに、今後とも、様々な面において、①之光教団の皆様といつのめ教区の方々とは共に手を取り、お互いに助け合い、励まし合いながら進んでいかれることを、心より願っております。

私は、明主様が主神を心の底から信頼し、その主神にひたすらお仕えになる思いに触れさせていただきたい、そして、少しでも主神の思いに近づかせていただきたい、と思っております。

私は、この度のように、皆様と親しく交流させていただけますことを、心からありがたく思いますとともに、皆様と私とは、お互いに明主様に結ばれた、切っても切れない関係にあり、いついかなる時も、共に主神の子として新しく生まれるべく養い育てられている、と強く感じております。

今後とも私は、私を感じさせていただいた、明主様を通して賜る主神の思いを皆様にお伝えし、また、皆様の思いを私の思いとして、明主様を通して主神に取り次がせていただきます。

私どもを取り巻く教団の状況がどんなに変化し、どんなに揺れ動いたとしても、私は、皆様とご一緒に、明主様が指し示された、全く新しい信仰の道を、全く新しい命の道を、大いなる希望をもって進ませさせていただきます。

さて、誠に恐れ多いことではありますが、私どもの命の親であられる主神の愛は、計り知れないほど広く大きく、また、深い愛であります。

主神は、すべてのものを赦し、天国に迎え入れたいという思いに満ちた方であられます。

この愛をもって、主神は、創造主として、すべてを創造しておられます。

私どもが明主様から、人間一人ひとり「祖先の综合体」とであると教えら

れておりますのも、主神が私どもの中におられる先祖の方々を、私どもと共に、全人類を救うという創造のみ業にお使いくださっているからです。

私どもは、もっとよくなりたい、よくならなければと思って、自分一人で頑張っ毎て毎日を生き、自分一人で悩み苦しんだり、怒ったり、悲しんだり、喜んだりし、また、自分一人で神様にお仕えしているように感じられますが、決してそうではありません。

先祖の方々は、主神のみもとにあって、私どもと共に生きておられます。

先祖の方々も、私どもも、決して死んでゆくために生まれてきたのではありません。

主神の創造のみ業にお仕えし、主神の子たるメシアとして新しく生まれ、永遠に生きるものとなるために生まれてきたのです。

ここで、私が気づかせていただいたことを申し上げたいと思います。

私は、心に現れた思いを主神に委ねるということは、過去の清算をさせていたでいてる、と思ひ込んでおりました。

しかしながら、先祖の方々を始め、私どもの今日までの歩みも、今現在の歩みも、実は、主神が未来の創造を成し遂げておられる歩みである、ということに気づかせていただきました。

主神の創造のみ業とは、新しい未来を創造するみ業である、と気づかせていただきました。

その創造のみ業には、未来を造る力、すべてを新しいものに造り替える力が働いております。

未来は、主神の未来です。

私どもは、原因の世界である天国において、主神の未来を持たされて生まれてきました。

私どもは、自分たちにとって都合のよい未来ばかりを考え、主神にとっての未来など考えていなかったように思ひます。

主神の未来は、私ども全人類を赦し、天国に迎え入れ、ご自身の子とされて、私どもと共に永遠にお住みになるという未来です。

そのために主神は、私どもを一生懸命養ひ育ててくださるとともに、主神の創造のみ業にお使いくださっているのです。

全人類とその父母先祖の方々を始め、天地万物一切を例外なく、すべてをお使いになって、新しいものに造り替えるという、未来を造る創造をなさっているのです。

このことを、私どもは、まず、喜びをもって認めさせていたできたいと思ひます。

私どもは、主神の創造のみ旨にお応えすべく、主神に対し、“わたしを先祖の方々と共に、すべてを新しいものに造り替えるという、未来に向けての創造にお使いくださっているのですね、とお返事させていただいたほうがよいと思います。

私どもは、自らの真<sup>まこと</sup>のふるさとである天国を忘れ、真の命の親である主神の創造のみ旨を忘れてしまったために、み前に罪あるものようになっておりました。そして、その罪のゆえに、限りある命、滅ぶべき命に生きざるを得ないものになっておりました。

私どもを愛してくださっている主神は、罪あるもの、滅ぶべきものようになっていた私どもをメシアの御名にあって赦し、私どもの中に、生き生きとした命に満ちあふれた、大光明燦然と輝く天国という真のふるさとがあることを、明主様を通して告げ知らせてくださいました。

この赦しこそ、明主様がお受けになった「夜昼転換」だったのではないのでしょうか。

私は、この夜昼転換は、主神の全人類に対する最大の福音であると思います。

このメシアの御名にある福音があればこそ、すべてのものは、赦され、救われ、生きたものとされて、天国に立ち返らせていただくことができるのです。

私どもの中には、真のふるさとである天国に立ち返る道、すなわち、メシアの御名という道が用意されているのです。

明主様は、今から約87年前の昭和6年6月15日未明、千葉県の新山にお登りになり、夜昼転換の啓示をお受けになりました。

この時の随行者は28名であり、黎明を破って昇る太陽に向かって、明主様を先達として、一同「天津祝詞」を奏上いたしました。

私どもは、始まりの天国において、明主様に結ばれたものであるならば、この時のご参拝に参列していたのではないのでしょうか。

そして、明主様と共に、夜昼転換、すなわち、罪の赦しを自らのうちにお受けしていたのではないのでしょうか。

明主様は、お歌に、「人々よ悔改めて世の峠安く越えなむ備へせよかし」とお詠みになりました。

「人々よ」と呼びかけていらっしゃるということは、“明主様が今のこの

わたしに向かっておっしゃってくださっている、ということではないでしょうか。

このお歌は、私どもに対する警告のような表現になっておりますが、それは、私どもが自らの罪に早く気づいて、悔い改め、“メシアの御名にある赦しをお受けします、と主神に意思表示するように、明主様が促してくださっていると思えてなりません。

また、「備えせよかし」とありますが、主神は、私どもがどんな罪を犯したとしても、赦しをお受けし、主神のみもとに帰ることができるようにと、あらかじめ、始まりの天国において、私どもの中にメシアの御名を備えてくださったのです。

主神は、その御名を、明主様を通して私どもに教えてくださったのです。

何という大きく深い主神の愛なのでしょう。

私どもは、この主神の愛にお応えするために、すべてのものと共に、メシアの御名にある赦しをお受けし、明主様を先頭に、すべてを新しいものに造り替えるという、未来を創造するみ業に、う倦まずたゆ弛まず、お仕えさせていただきます。

ありがとうございました。

以上